

慶應義塾大学大学院 経営管理研究科
博士号学位申請論文

February 2012

考慮集合形成メカニズムと
意思決定ルール

主査 : 池尾 恭一 教授 (慶應義塾大学大学院 経営管理研究科)

主査 : 余田 拓郎 教授 (慶應義塾大学大学院 経営管理研究科)

主査 : 井上 哲浩 教授 (慶應義塾大学大学院 経営管理研究科)

浦野 寛子

Hiroko Urano

目次

.....	1
第1章：研究課題と本研究の構成	1
第1節：問題意識と本研究の課題	1
1. 問題意識	1
2. 消費者行動研究の代表的アプローチ	2
(1) 刺激－反応アプローチ	2
(2) 情報処理アプローチ	4
(3) 体験主義アプローチ	6
(4) 本研究が依拠するアプローチ	8
3. 消費者の購買意思決定プロセスの枠組み	9
4. 意思決定における合理性と消費者の情報処理能力の限界	11
5. 本研究の課題	14
第2節：本研究の構成	16
.....	19
第2章：考慮集合に関する先行研究	19
第1節：考慮集合の中身に関する研究	19
1. 考慮集合の「サイズ」に関する研究	19
(1) 消費者間による考慮集合のサイズの違いを比較した研究	21
(2) 商品やサービス間による考慮集合のサイズの違いを比較した研究 ..	23
(3) 関与水準と考慮集合のサイズとの関係を扱った研究	24
(4) 状況による考慮集合のサイズの違いを比較した研究	25
2. 考慮集合内の選択肢の独立性と類似性に関する研究	26
第2節：消費者の情報処理過程における考慮集合の研究	29
第3節：考慮集合形成メカニズムと意思決定ルールを探る研究	33
第4節：考慮集合形成に関するその他の研究	34
第5節：本研究の焦点	34
.....	35
第3章：意思決定プロセスに関する先行研究	35

第1節：購買行動と意思決定	35
1. 消費者行動の階層性と分析レベル	35
(1) 消費者行動の集計水準に着目した分析レベル	35
(2) 消費者選択の階層性に着目した分析レベル	37
(3) 購買行動の選択に注目した分析レベル	39
2. 購買行動における意思決定問題	41
(1) 意思決定概念	41
(2) 意思決定主体	41
(3) 個人的意思決定の性質	42
3. 意思決定のプロセス	44
(1) 購買意思決定のプロセスの3つのフェーズ	44
(2) 購買意思決定と情報処理	44
(3) 購買意思決定プロセスの諸段階	45
4. 意思決定プロセスの変容	51
(1) 広範的問題解決 (EPS)	52
(2) 限定的問題解決 (LPS)	52
(3) 習慣的反応行動 (RRB)	52
第2節：意思決定方略	54
1. 多属性態度モデル	54
2. 決定方略	56
(1) 種々の決定方略	56
(2) 決定方略の分類	59
3. 多段階の選択方式	60
4. 先行研究における問題点	62
第3節：意思決定に影響する要因	66
1. 消費者意思決定に影響を与える内的・外的要因	66
(1) 個人差を生み出す内的要因群	66
(2) 多様性を生み出す外的要因群	68
2. 内的要因としての関与	70
(1) 関与という分析視点と研究の源流	71
(2) 関与概念の整理と類型化	76

(3) 関与水準と情報処理	81
3. 内的要因としての判断力	85
.....	86
第4章：理論枠組みの構築と仮説の導出	86
第1節：理論的枠組み	87
1. 購買関与度と製品判断力	87
(1) 購買関与度	87
(2) 製品判断力	88
(3) 消費者の類型化	88
2. 考慮集合形成メカニズムと多段階の決定方略	92
第2節：理論分析に基づく仮説の導出	94
1. 「購買関与度」と意思決定ルールの関係	94
2. 「製品判断力」と意思決定ルールの関係	95
3. 「購買関与度×製品判断力」と意思決定ルールの関係	96
4. 理論分析の結果	97
.....	100
第5章：仮説の検証と修正	100
第1節：方法論的立場	100
1. 現代科学哲学の系譜	101
(1) 論理実証主義	101
(2) 論理経験主義	101
(3) 反証主義	103
(4) 相対主義	104
2. 本研究における方法論的立場	106
第2節：プロトコル法による仮説の検証と修正	109
1. 調査概要	109
(1) 調査手法	109
(2) 調査内容	111
2. 消費者の特性：購買関与度と製品判断力	115
3. 収集されたデータの加工と言語プロトコルの事例	119
4. 分析の結果と仮説の検証	121

第3節：異なった設定のプロトコル法による仮説の検証と修正	125
1. 調査概要	125
2. 消費者の特性：購買関与度と製品判断力	128
3. 言語プロトコルの事例	131
4. 分析の結果と仮説の検証	131
.....	135
第6章：総括と今後の課題.....	135
第1節：本研究の総括	135
第2節：本研究の貢献と限界.....	140
1. 本研究の貢献	140
2. 本研究の限界.....	141
3. おわりに	142
参考文献.....	143